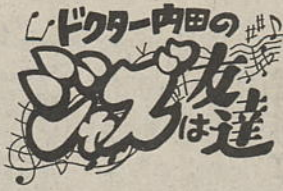


粗末な建物といす

最初の目的地「ニューオーリンズ」には、かたくなに正統的なトランディショナルジャズを守り続けている二つのホールがあった。「ディキシードランドホール」と、数々のライブレコードで、世界的にも有名な「プリザーベーションホ



ル」である。

どちらも古めかしい粗末な建物に、何のそっけもないベンチ風のイスで、ジャズ好きの客を迎えるという風情だが、そこで響くのは本物のニューオーリンズジャズ。なぜか入場料は「ドネーション・オンリー」(DONATION ONLY)、「ひまわりおひま

り」で結構というのが面白い。最初の夜に訪れたのは「ディキシードランドホール」。訪日したあの古老たちは、別に専属というわけでもあるまいが、「プリザーベーション」系の人たちだったから、ディレクターと名乗ったポールト

ろざしで結構というのが面白い。最初の夜に訪れたのは「ディキシードランドホール」。訪日したあの古老たちは、別に専属というわけでもあるまいが、「プリザーベーション」系の人たちだったから、ディレクターと名乗ったポールト氏、先を越されて、内心ちよっぴり寂しかったのかも知れないね。

まだ珍しかった日本からの客を迎えて、こそとばかりの大歓迎で、初対面の僕を早速、あす私の家に来ないかというお誘いだ。遠慮しては失礼と、約束の十二時に訪問すると、張り切ったポールトン氏から、ウィスキー片手のご高説を拝聴する(と)三時間。さすがにこ

さか疲れたけれど、その情熱には胸打たれるものがあったなあ。そして、そのあと引き続いた体験が、ジャズにかかわる僕の人生の中で、長く尾を引く大切なものになったの

# 貴重な資料が並ぶ ジャズ博物館見学

お話がひと段落して、すっかり「きげんのボールトン」氏、ぜひ見てほしい所があるから、ご案内しようと思われて行かれたのが、オープン三年

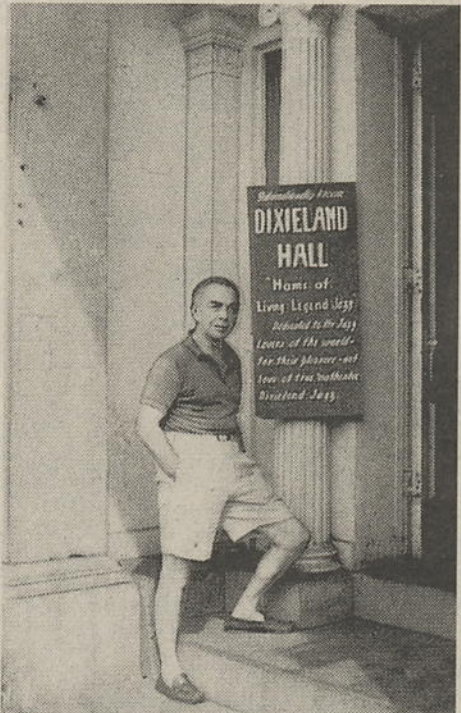
と整理、展示されており、ジャズの歴史がひと目で分かるばかりか、ずらりと並んだヘッドホンで、好みのジャズを自由に聴くことのできる装置とかが備えられて、そのすばらしさにうーんと感嘆してしまっ

目「ジャズ博物館」(JAZZ MUSEUM)だった。明るく小ぢんまりとしたたすまいだが、中には「アームストロングの少年時代の愛器やら、ジャズが生まれて以来の貴重な資料が、きちんと

と整理、展示されており、ジャズの歴史がひと目で分かるばかりか、ずらりと並んだヘッドホンで、好みのジャズを自由に聴くことのできる装置とかが備えられて、そのすばらしさにうーんと感嘆してしまっ

## 自慢げに友を紹介

その夜、再会を約して別れた僕には、今ひとつ忘れてはならない大事な約束があった。それは日本にやって来た「ニューオーリンズ・オールス



ディキシードランドホールの入り口に立つポールトン氏

ていた夫妻の欲待ぶりもさることながら、何よりもうれしかったのは、あの年老いた黒人ミュージシャンたちの、子供のようないじやぎよつだった。 貫録十分とはいえない、東洋からの若いドクターの僕の

この時の感激が、「日本に「タース」の団長格だったヤツもジャズの博物館が欲しいな」フェ氏夫妻にお会いすることあ。そうしたら集めたLPだ。実はこのヤツフェ氏の「ドクター」に診てもらったんやテープを含めた資料を寄付。そ、「プリザーベーション」ホ

し、ジャズに興味をもつ若い人たちのお役に立てるかもしれないのだが、「なんていられないのだが」なんてい。今も持ち続ける僕のさざれど、何度も食事をこ結やかな夢の原点となったの。して、すっかり仲良しになっ